

アメリカ西部の 一部を旅して

風 井 訥 恭

「君の会社はアメリカ国内で、最も信頼のおけるレンタカー社と友人から聞かされているし、借りる本人もそう思い、借りようとしている。それなのに、このような状態では借りることができない。」「何事か?」「鍵穴がこわれているし、良い状態の車ではない。他の車と換える……。」

本年三月下旬に、約一年間滞在したワシントン州ブルマン(ワシントン州立大:WSU)を出立し、帰国の途につき、スポケーンより空路をとり、ここ、ソルトレークシティからレンタカーでユタ州を縦断し、渓谷の規模で世界にその名を知られているアリゾナ州のグランドキャニオンを経て、フラッグスタッフまで走破しようとしたときのこと。整備係に「タイヤの溝が無いのと同じではないか。」彼はメジャーをポケットからすつと出し、殆んど接地圧力のないところ、タイヤの最外縁の部分を探り「合法です。」「トランクの鍵が折れて、開けられないよ、どうすれば開けられる……。」ニッパを持ってきて、その鍵穴をこわして開ける。こちらは日本の感覚で、整備係に「君、他の良い車と換えてくれないか。」「自分はその担当をしていない。」なるほど、配車係のところへ。そして冒頭のや

りとりとなった次第です。

「我が国では、このような管理上の手落ちがあれば大問題になろうし、……。」相手は判ったのかどうか、ただ顔を紅潮させながら書類を書き換えて「2号車を使って下さい……。」そうだお札の挨拶を忘れていた、これだけはしておかねば「サンキューシーユー。」

人が職場において、自分の役割り(仕事)を明確にされていなければならないほど、他の人の役割りには関与したくともできない仕組だろうし、また、時が経てば経つほど、自己と他人との役割りの関連を考えなく行動するのが、一般的行動様式ではないでしょうか。組織が巨大になり、存続するには程度の差こそあれ、この権能の分化をしておかねばならないものでしょうが。わずか一年間の生活期間でしたが、アメリカ社会は組織の役割り分担が細分化されているところが多く、ぎくしゃくする社会、と折に触れ感じさせられました。しかし、最近は何となく似て来つつあるような……。

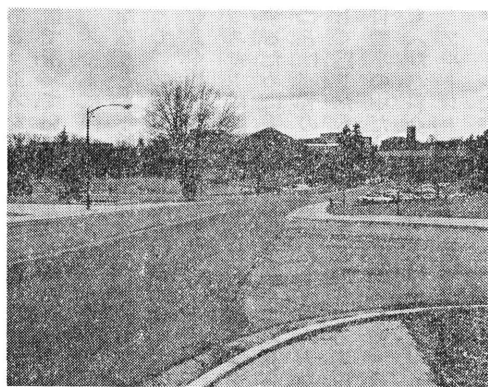
この帰途にユタ州やアリゾナ州にまで下つて来たのには二つの理由が。一つにはユタ州の南部には国立公園や山岳公園が多く、アリ

ゾナのグラランドキャニオンが近くにある。二つにはゴンドラを利用してスキーをすること。

ブルマンの近辺には広く名を知られた「ジュワイツァ」の他にもいくつかのスキー場があり（幸いにも本年は十年來の大雪に会い、我が家の南・北の道や斜面でもスキーをしました）学校が五日制というのを利用して、特に土曜日を中心として、弁当、自炊道具、寝袋等をも車に積み込んでスキーに。距離が大体一五〇～二五〇キロメートル、片道二時間半から四時間の行程。しかし、これらのスキー場には、いずれも椅子式（二～三人乗）リフトのみで、少々風があり、寒くとも快適に上まで運んでくれるゴンドラ式がありませんでした。広いアメリカまで来ているのにゴンドラに乗り、より長い距離を滑らねば、「スキーの良さも半減」すると。ブルマンの近くで季節を考え、雪の質量も満足できそうなところと探し、ソルトレークの近くを（日本と同様に、交通の便が良いところは、スキーの諸経費は多く要るようです）。

このスキーに対するアメリカ住人の考え方は、テニス・ゴルフは手軽に行なえる種目だが、スキーは費用を多く要し、手軽にはでき

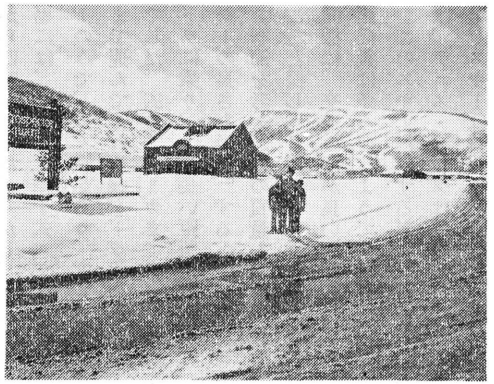
ない種目という考えが共通しているようです。ブルマンにも、町のあちこちに公園が設けられて、そこにはカマド類、屋根、便所等に付設して、テニス、バスケットのコート等がありました。また、大学にも一六面のテニスコートがあり、いずれも無料で、特に指定がない限りは使用できるようになっています。また、ゴルフコースも大学の一角にあり、半ラウンド四ドル余、一ラウンド九ドル余で誰でも使用できます。スキーの場合、リフト券だけでも一日に一二〇ドル、半日一〇〇



大学の一角 体育館・テニスコート・図書館・管理館がみえます

一五ドルとテニス、ゴルフに比べますと、ぐっと費用が嵩むことは事実のようです。

あちこちのスキー場を滑ってみまして、日本のと比較しますと、殆んどどのスキー場は、滑降コースが長く、その巾もゆったりと作られているという感をさせられます。そこを、ブンブン飛ばし、とばされながら滑っています。日本の神風スキーヤーとか暴走スキーヤー以上の猛スピードで滑り、派手な転倒もあちこちでしています（混雑度は比較にならないのが幸わせ）。どのスポーツにも体力が必要なことは自明の理ですが、スキーではスピードに対する感覚の養成が肝要と思われる。小さな子供達がビュン、ビュン滑り、よちよち歩きの子供が雪上に敷かれたジュータンの上を歩いて登り、そして雪上を滑り降りる。腰に紐を付けてもらい指導者がそのスピードを調整しながら滑らせている。コースの設計も、初心者、初級者、中級者等ができる限り合流しないように滑るコースが設計されている。良い条件下で滑ることができて幸わせたなあと。このことは国土の広い、狭いの違いだけではないように思えます。八二年度のスキーワールドカップ大会での成績結果を断片的にししか記憶していませんが、アメリカ



早
春ですが2日続きの新雪でゲレンデは良好
ユタ州パークシティースキー場を背景に、

あるコースを、ゆうゆうと楽しみながらの風情で滑っているのをしばしば見かけました。スキーに限らずテニス、ゴルフ等を何歳になろうとも年齢に関係なく、自分の調子を作って、プレーを楽しんでいる光景は大学内でもよく見かけたものです。

スキーに関して、もう一つ、諸経費を節約するために手弁当持参組がたくさん見られたことは、昔のことを思い返し、なんとなく嬉しく感じたものです。そして食べる場所は、自動車の中だけでなく、食堂・休憩室の中でも（駐車料金を払ったことはありません）。

ソルトレックシティから東へ約五〇キロメートルでパークシティへ。ここは昔、二七人の億万長者を産みだした銀山として盛えたところとか。あちこちの店で観光客相手にいろいろな品物が売られていました。しかし、品物の種類は、日本のもそれほど変らない、いや、日本製品を含め、全くといっていいほど日本にも見受けられる品物ばかり。でも、カウボーイハットが蛇の骨の飾り付きで売られているのには驚かされます。

夕刻に自炊するため、食糧を買いにスーパーストアへ。スキーヤーと判る服装の人達で店は大賑わい。それにしても、どこのスーパ

ーへ行っても、犬猫類の食べものの品量の多さには驚かされます。トラックの荷台、あるいは、助手席どころか運転席に待らせ、また、一匹では足りないのか、三、四匹も乗せているお国柄。ブルマンで家族が合流し、生活を始めて一月後の九月初旬に（学校の新学年が始まります）我が家の階下に住み込んだ大学院生三人のうちの一人が、ながい鎖につないで黒犬を飼っていました。糞便生理作用は皆さん自身も考えているのでしょうか、鎖を極力伸ばした範囲であちこちに。飼主は全くその始末をしません。そうしている間に、彼は「主」に散歩に連れられていく回数よりも、鎖を切ったり、首輪を千切ったりして、階上の我が家の入口附近でウロウロしたり、息子達についてあちこち散歩（？）した回数の方が多かった。あの黒犬の「ネコ」よ、お前は今はどうしているかな……。

このパークシティで泊ったモートルには、温水プール、室内バスケットコート、屋外テニスコート、ラケットボールコート等の施設があり、その用具類も備えてあります。長期休暇をとって、積極的休養をするということでしょうか。

この旅行を含め、あちこち（といっても西

男子の双生児選手とか、女子でも二、三人の選手が優勝したり、上位入賞したりの結果を得たようで、アメリカはスキー競技でもA級になったのだなあと痛感させられました（二十年程以前には、日本の傑出した、あの猪谷千春氏が在米中にアルペン競技部門で常にトップの座を占めていて、あの当時はヨーロッパ勢に対しては完全にB級でした）。

このスキーを楽しんでいる年代層は日本と同様になかなか広く厚く、一見して六十、七十歳位の人達が一滑り六、七キロメートルも

部のほんの少し)のモーターを利用して痛切に感じさせられましたのは、日本なら大体の宿では、食事付で泊れば、朝はみそ汁、のり、卵と、いつ頃から決められたのか。モーター利用者でも多くの異なった要求を持ってモーターを利用している。それなりの要求に応じられるようになっていくという違い。自炊道具持参者もあれば、寝具持参者もある。

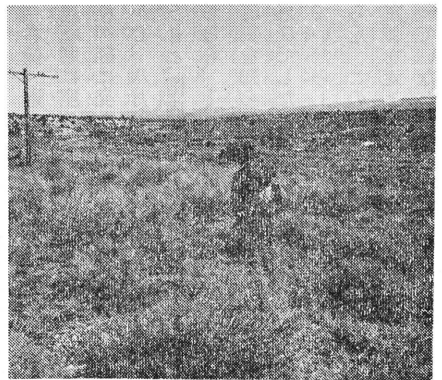
短期宿泊者も長期逗留者も。WSUの共同研究者のエイドリアン教授のように、三年がかりで自分の家を建てたといううなでつかいことでなくとも、旅行好きの多くの人は自炊、洗濯をしながら、その生活を楽しむ過ごしているようでしたが、日本で家族旅行のとき、洗濯類はどのようにして済ませているのでしょうか。

生活の余りものとか不用になった品の上手な処理方法に、アメリカ住人の生活の知恵として、ヤードセール(ガレージセール)というのが挙げられましょう。

各家庭で不用・不要品類を機会を作っては自分の庭とか軒先とかで、単独で、あるいは共同で品物もそれぞれ売値を貼りつけて陳列して売られます。使いすぎたもの、着古したもの、シャツからコート、古いレコードから

汚れた本、自家製の長椅子・机の類、スプーンにコップ類、鉢うえの植物も。このプルマンでは、季節的には学生の移動の多い夏の後が中心のようでしたが、引越しをするのでという宣伝文句がかなりありました。曜日はほとんど土曜日で午前中。開始時刻が書かれていなくても、他の人より良い物を手にしたいのが人情。この時刻は守られていそうにもありませんでした。新聞紙上(学生新聞が月々金曜。町の新聞は水・土曜の二回発行)やスパーの掲示板、ときには電柱に貼り紙が。町中の古道具屋の主も買って帰っていました。WSUの教育学部の赤嶺教授の話によりますと、その売り上げ金は三、四〇〇ドルにも達するとのこと。また、その売残りには各種施設に寄付すること。ゴミもつもれば富となる。日本でもこのようなセールが日常的なこととなるとすれば、どのような社会状況に変わっているのでしょうか。

プルマンからスポケーン、シアトル。また、アイダホ州のルーズストン、サンダボインド等へ何回となくドライブをして、その都度、広くて、大きい、同じような眺めがくりひろげられる国という印象を受けさせられていました。このユタ州を南北に縦断し、アリ



ユタ州ブライスカニオンの近くで、柵のなかでは馬や牛をみかけることもあります

ゾナ州のほぼ中央部に及ぶ、約一六〇〇キロメートルのドライブ(ソルトトレイクシティー——パークシティー——リッチフィールド——ブライスカニオン——スプリングデール——ジイオン——ギエップ——グランドキャニオン——レッドレーク——フラッグスタフ)の「印象は？」と問われれば、「限りなく同じような景色が展開され、広大である」と。西北部の麦畑に代わって、荒涼たる原野というよりも、寂寥たる荒野の眺めが連綿と左右に展開されていきます。

こま切れながらも見渡す限りの田畠の、日本の風景とこの前述の風景との差は、物差し

を使えばメートルとセンチメートルとの差があるほど規模の差を感じさせられます。広い、広い。でっかい、でっかいの繰り返しの中を車は通り過ぎていきます。ハリウッド映画の華やかなりし頃。よく西部劇をみに行きまし。なんだかんだと勝手な理屈を見つけてはよく行きました。「シェーン」「OK牧場の決闘」「大いなる西部」……。役者の個性ある演技力にも魅せられていたのでしょうが、画面のところどころに現われる景観の広大なことが音楽効果に相乗されて、同じ映画を何度となく見に行ったように思えます(シェーンのアランラッドはこの作品以外には何の演技力もみられないと言われています)。

何の農作物も得られそうになく、せいぜい灌木類が点々と。ときには喬木が水の流れに沿ってみられることもあります。環境が人の性格形成に影響させるとすれば、このようなところではどのような性格形成が強くなされるのでしょうか。

近年、日本の道路標識類が運転者にとってかなり判別しやすくなって来ているように思いますが、車王国アメリカにはまだまだ及ばないと思います。道路の辻ごとに町名

番地が明示してあるのは好都合です。また、アメリカの道路番号は、大陸を東西方向に走る横の道路は偶数番号、南北方向に走る縦の道路は奇数番号と決められています。それなのに、地図で確実に把握せずに未知のところへ車で出かけ、目的地につくの長い時間かつた例を一つ。

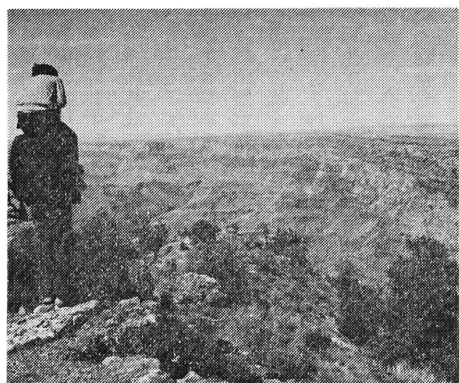
この帰国途中、ロスアンゼルスのホテルでペンシルベニアにて研究していた友人と一年ぶりに会おうとしたとき、彼は電話で「高速道路から降りるとすぐ目の前に建っている大きなホテル」「通りの名とホテルの名が同一」と。手近かにあった地図をみますと、その通りの名がバット目の中に。「サンジェゴならここで降りればすぐだ。」その高速道路の数字を尋ねなかったのが先ず大きな失敗。5号線を北上し、ロスに入り、ずっとそのフィゲロアという通りに出ました。心は浮き浮きしていました。大きなホテルに泊るのが初めてだし、飲み相手に久しぶりに会えると思いい。すつと通りを行くも見当らない。見過ごしたのかとアト戻り。人に尋ねますと「この道の向うにも、この通りがある」(ブルマンで自分の家から町中へ出かけた最初の日に道を尋ねられたことを思い出す)。どこかに日本の交

番のようながないかな。パトカーに会えないのかな……。

中年の男性が「この先のメイン通りを左に曲がり……」と。丁寧に教えてくれる。どこへ行っても、人の情けは身に染みてありがたいもの。それにしても、このようなときに限ってパトカーには会えないらしい。

京都の大路通りや大阪の御堂筋の長さの感覚ではとてもとても。このフィゲロア通りの延長は手元の地図からでも七〇キロメートル以上。

車を運転して、特に最初の頃は走行車線の違いには、随分と気にしていたようです。「右側、道の右側を運転していくのだぞ」と運転席に座ると、先ず一番に、この指令を中枢神経に発してからエンジンをかけ始動。しかし、八月初旬に、家族がスポケーンへ来るときと、国内航空管制官のストとが重なり、こちらでも、それなりにばたばたして、空港着の時刻を知らされ、すぐに行かねば遅くなると飛びだしたとき、この指令を発するのを忘れていたらしい。「何だかオカシイ?!」前方からも、この車の正面に向かって車が。「あつ、左側を走っている」……。家をでて一分も経っていなかったように思いますが。空港で待



アリゾナ州グランドキャニオンで

つ間もなく一行四名さまが、のんびりした表情で到着。ヤレヤレ。

グランドキャニオンの前泊地はギェップというところにしようと地図の上で決め、闇がせまるころ。「着いたようだぞ」??? 車の中で五人揃って大笑い。ガソリンスタンドが一つと無人的モーターがボツリと。一〇〇メートルほどの距離をおいてあるのみ。戻るとすれば一〇〇キロメートルはある。前進のみと。次のケメロンへ。モーター、コインランドリー、レストラン等をみつけヤレヤレ。この翌朝、昨日は各種装飾品を売っているイ

ンディアンジェリーの看板のある店に寄れなかったので、三、四軒は後学のために見るだけでも見に行こうと。一軒の店で物色中(?)、子犬が一匹のこのこと車道へ。キャンキャン……。うずくもったまま動けない子犬。飼い主らしい母子の二人連れは何も知らない顔。愚息連が抱き上げて来ました。前足を骨折し、全身の衝撃によるのかブルブルと震えながらキャンキャンと泣くだけ。WSUでメキシコとインドネシアから来ていた両学生が「犬の肉は美味だ。猿の肉は珍美味」といつていたことを、何故かそのとき思い出しました。

このできごととは、一番下の九歳の息子には、この旅行中で頭のなかに刻印されたようなできごとだったようです。

おいしいカリフォルニア米を一日一回は食べようと、圧力鍋とはグランドキャニオンまで共に行動をしました。明日からはアメリカ西海岸に行くので、あとはなんとかなるだろう。

この旅行中でのモーターの泊賃は二八〇六五ドル。パークシティーのが一番高くつきました。常に、ベッドと寝袋とを組み合せて、安い宿探しの旅行でした。ゆったりと時間を

とるように心がけて。航空便だけが行動するのに少し制約因となっていました。

人の少ない、莫然とした景色を経て、サンフランシスコやロスアンゼルスに移っていったときには、人間の多いのに親子ともども圧迫感を受けたようで、特に女房・子供はもう一度ブルマンに戻ろう(?)としきりに言っていました。

アメリカ生活のある面を述べるとすれば、使用済みになれば売られていく教科書。パレンタインデーでの味のある三、四行の広告文、ハローインのできごと。クリスマスツリーのこと。農業王国地のウィットマン地方(ブルマンも含まれます)の秋の祭り、アメリカワインやビールの味のこと。高価さを我慢して買えば神戸肉もビックリの肉(でも、日本の価格の三割以下)等のことが欠かせないものと思っていますが、今回は旅行中のできごとの一部を記してみました。

おわりに、一年間もの長期間、海外で生活できるという幸運に恵まれました。これも多くの人達のお陰によるものと感謝しています。

ありがとうございました。

(かざい のぶゆき 文学部助教授)